

  
2023 *Smile* 学校だより 本荘

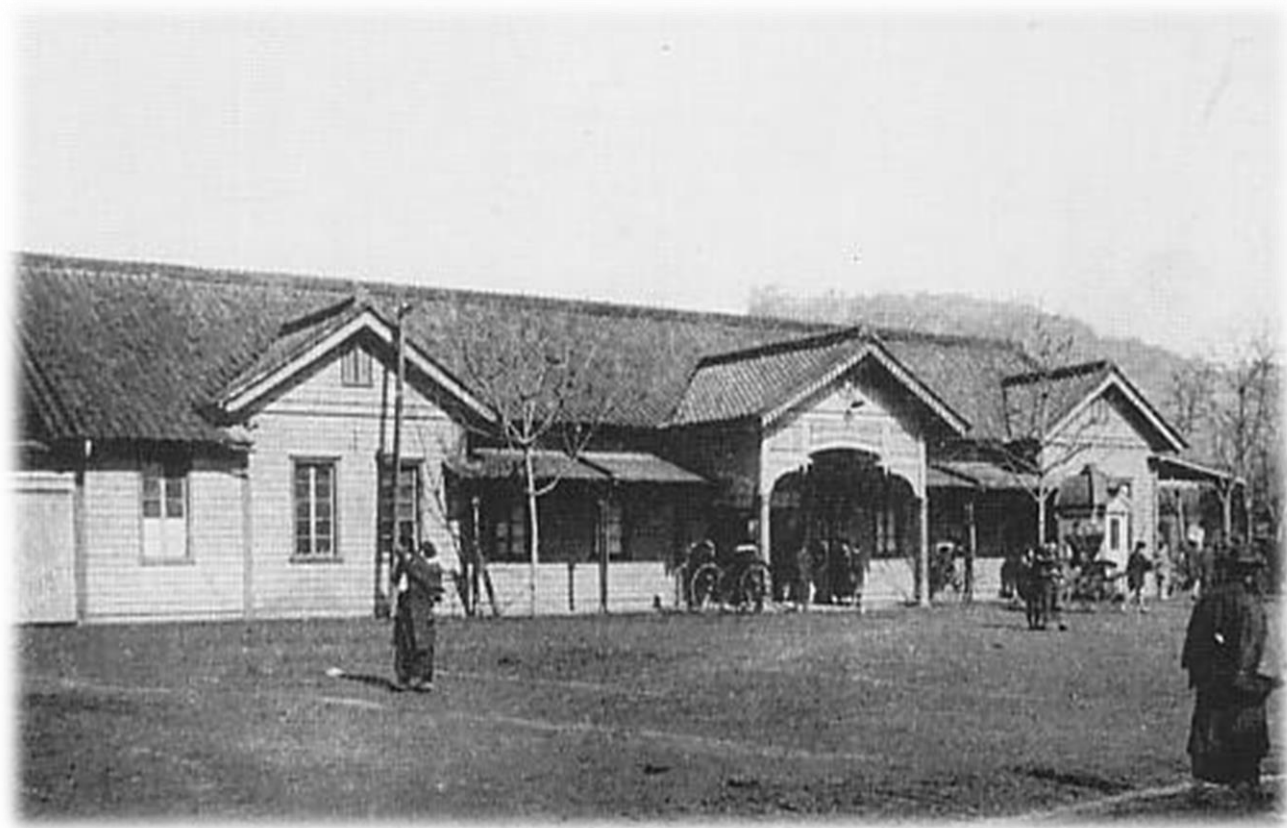
令和5年度 第48号  
令和6年2月22日  
熊本市立本荘小学校  
校長 西川 英臣

3年生で授業をしています。「わたしたちの市と生活のうつりかわり」です。

3年生の子どもたちの授業をしています。社会科3年生の単元「わたしたちの市と生活のうつりかわり」の単元です。単元の目標は、以下のようになっています。

- (1) 市の様子の移り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口の変化、生活の道具などの時期の違いに着目し、調査したり地図などの資料で調べたりしたことをまとめ、変化の傾向を考え表現することを通して、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにする。
- (2) 市の様子の移り変わりや人々の生活の変化について、学習問題の解決に向けて意欲的に追究し、学んだことを基にして、市の発展に関心を持ち、市の将来について進んで考えようとする。

この100年ぐらいで熊本市がどのように変わってきたかを学ぶ学習です。その1時間目の授業をしました。



わたしたちの熊本(日本標準)より

この写真、どこかわかりますか？実は熊本駅なのです。120年前(1904年)といえますから明治37年になります。私の両親が昭和13年と15年生まれですので相当昔ですね。それが、だんだんと新しくなっていきます。だんだん、記憶がよみがえってきたご家族の方もおられるのではないのでしょうか。最後は、現在の熊本駅なのですが、見た感じが新しくなっていることを子どもたちは読み取っていきました。並べてみました。御覧ください。

(裏面へ)

3年生は最初の写真を見て、直感的に「駅」とつぶやくので大したもの。「横に長い建物は駅」と学んでいるのでしょう。すばらしい予想です。これって、問題解決的な学習には必要で、社会科や理科という学習の中では、重要視される資質・能力だと考えています。

最初のこの資料で子どもたちは「時代が新しくなれば、建物も新しくなるのだ。」という社会認識をもちます。子どもたちの認識力を改めて感じた校長先生でした。

次の資料を見せました。おわかりでしょうか。

### 交通センター⇄サクラマチバスターミナルへと変遷した写真

そうです。サクラマチバスターミナルなのですが、私たち世代にとっては「交通センター」「岩田屋伊勢丹」の方がしっくりとくるものです。ここには、少年時代、青春時代の思い出がつまっているのです。しかしながら、交通センターができたのは昭和44年、今から54年も前なのです。校長先生4歳です(笑)。すいぶん昔になりました。時代とともに街並みは変わります。新しくなります。しかし、変わらないものもあります。それらを調べながら、学習を進めている3年生です。久しぶりに授業をする内容ですが、現代風にアレンジしながら楽しく授業をしている校長先生です。(校長)

### 校長先生の虫眼鏡 「熊本城マラソンの応援をしていたら ^^」



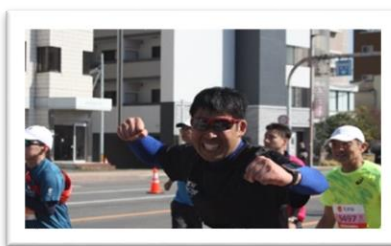
元なかよし組 安田先生



江原中 東 校長先生



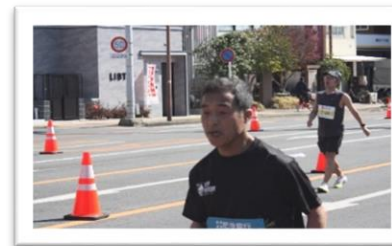
3年生保護者 飯干さん



外国語専科 星合先生



PTA副会長 志柿さん



元本荘小教頭 益永校長先生

熊本城マラソンがありました。本荘小学校横の道路を走りますので、地域の皆様も総出で応援しておられます。当日は、校長先生も応援に繰り出してみました。すると、江原中の東 校長先生、外国語専科の星合先生、PTA副会長志柿さん、3年生の保護者飯干さんも走っておられました(^\_^)-☆さらには、元本荘小学校教頭の益永田底小校長先生や元本荘小なかよし学級の安田先生のお姿がありました。みんなナイスランでした。